（様式－3）

再発防止対策報告書

東北支部

発生日時	令和５年９月２７日（水曜日）１２ 時２０ 分頃							天候	曇り	
災害の程度	死亡　　名		負傷　１名		職種 基礎工		年令 ２７才		経験年数８年	
工事の種類	調査測量	伐採	運搬	仮設	基礎	組立	足場	架線	撤去	その他
災害の種類	墜落・転落	転倒	物の飛来・落下	崩壊・倒壊	はさまれ・巻き込まれ	切れ・こすれ	感電	その他		
原因	作業準備の不良	作業方法の不良	工具防具の不良	電気工作物の不良	作業者の過失	共同作業者の過失	その他			

災害の状況

［件　　名］鉄塔基礎工事において、破砕剤により岩盤掘削中、飛び石が被災者の右側頭部にあたり受傷

［作業内容］鉄塔基礎の掘削作業

［発生状況］鉄塔基礎の掘削作業において、破砕剤の圧力により破砕物が飛散し、飛び石が被災者の右側頭部にあたり受傷した。

［被災程度］右頭蓋骨骨折、左目下骨折

［服装・装備］　作業服上下、長靴、革手袋、ヤッケ、保安帽

発生原因と再発防止対策

［発生原因］

・掘削穴全体を一様に掘り下げ、効率的に作業するために大量の破砕剤を使用した。
・作業班は薬量を増やした時の危険性を認識していなかった。
・元請会社は現場での破砕剤の使用制限のルールを定めていなかった。
・技術員は指示、命令、報告のルール意識が薄れていた。
・元請会社は避難場所を決めていなかった。
・鉄板とフレコンパックの防護ではどうしても隙間ができた。

［再発防止対策］

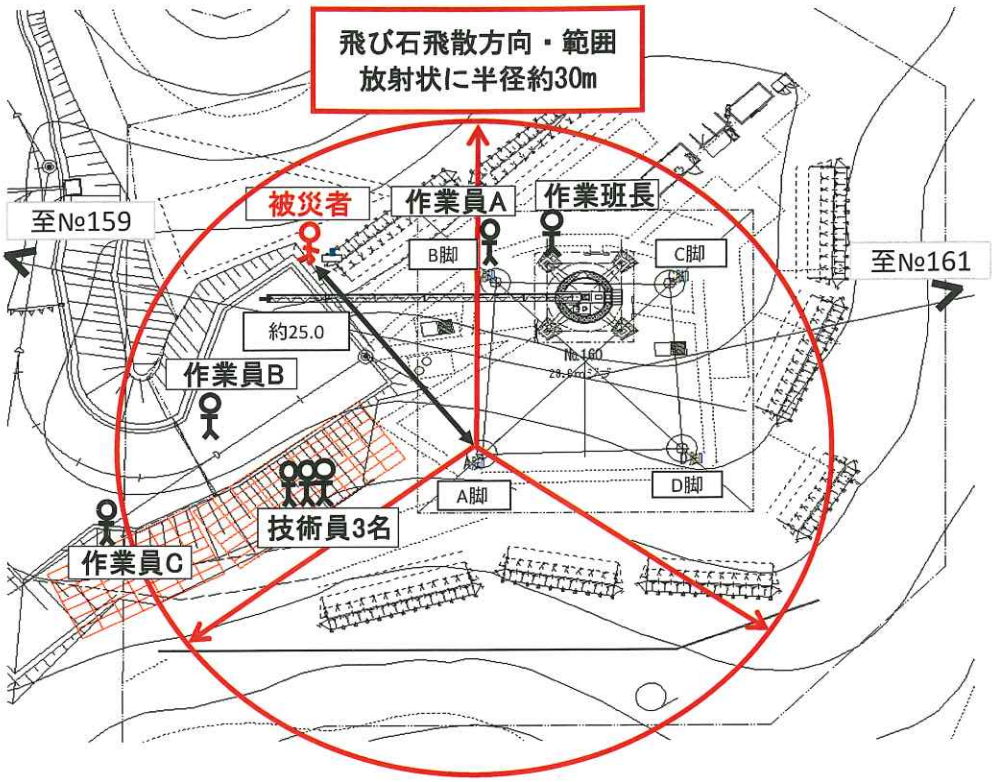
・元請会社は破砕剤を安全に使用するための作業方法（薬量の上限、退避距離・遮蔽等の「破砕剤避難場所」の明示、飛び石が出ないように防爆シートを基本とする防護対策、安全管理体制など）について明記した作業手順書を作成する。
　※安全管理体制として安全管理者は火薬の公的資格を保有するものとする。
・元請会社は破砕剤使用時のリスクアセスメント評価表を作成する。
・作業班長はリスクアセスメント評価表に記載された破砕剤のリスクを作業員に周知する。
・技術員は破砕剤使用時、持出管理表に使用予定数量と使用実績について現場代理人の承認を得る。現場代理人は持出管理表により、予定数量と使用実績の管理を行う。
・作業班は、破砕剤の使用時は、必ずＴＢＭ－ＫＹ－ＲＦの検討項目にあげる。
・現場代理人は現場職員、基礎工事班の乗り込み時に破砕剤の作業手順書、リスクアセスメント評価表について教育を実施する。
・現場職員はパトロール時に作業員が破砕剤のリスクについて認識しているか確認会話を実施する。

（注）1.「人身災害報告要領」に基づいて記載するものとし、「工事の種類」「災害の種類」「原因」については該当項目に○印を付ける。
　　2. 災害状況の説明と共になるべく図面を添付すること（様式－2）。
　　特に感電の場合は支持物、電線の離隔距離その他寸法を記入する。

（様式－2）

災　害　概　要　図

発生状況



1．放射状に半径約３０m飛び石飛散
2．Ａ脚からの退避距離
（1）被災者　　：約２５m
（2）作業班長　：約２１m
（3）作業員Ａ　：約２１m
（4）作業員Ｂ　：約２５m
（5）作業員Ｃ　：約３３m
（6）技術員３名：約１９m
※被災者以外の作業員・技術員に被害なし

：飛び石
：重し用フレコンパック
：防護用鉄板